

福井県立美術館研修に行ってきました

令和元年10月17日(木)、今年度の中学1年生の福井県立美術館研修が行われました。当日は、第70回 福井県総合美術展の初日でした。同美術展は「県美展」の愛称で県民に親しまれており、また県内作家の登竜門としても注目されています。

県美展は、前期展(公募作品から選ばれた入選・入賞作品を展示。6日間)と後期展(福井県の美術を牽引する作家の作品などを展示。6日間)があり、今回は前期展の開催期間でした。



日本画、絵画造形、彫刻、工芸、書道、デザイン、写真の7部門をグループごとに観てまわり、それぞれの部門の専門家に作品および部門全体の解説をしていただきました。生徒たちからは次のような感想が聞かれました。生徒たちは幅広いジャンルの多様な作品に接し、大いに刺激を受けている様子でした。

「美術や芸術は難しくよく分からない、というイメージが強かったです。よく分からない作品もあったけれど、よく見てみると『作者が何を考えてこの作品を作ったのか』、『なぜこの作品はこの色を使ったんだろう』、という疑問が出てきて、それを質問したり、自分で考えたりするのがとても楽しかったです。」

「僕は『母の自問自答』という作品が心に残りました。ただ絵を見ただけなのに、母の「子供を寺に入れてよかったのだろうか」などの迷いが、子供が透けて描かれている様子からひしひしと伝わってきます。絵の中にストーリーがあるのが面白いと思いました。」